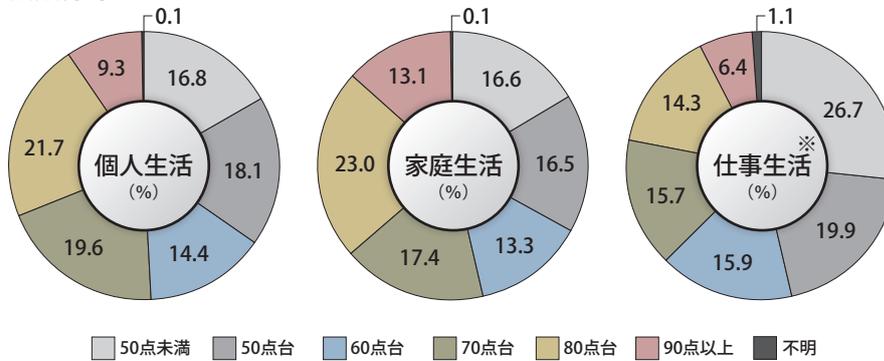


現在の生き方を採点すると・・・

あなたが満足できる生き方を100点とするとき、現在のあなたの生き方は何点でしょう。「個人生活」「家庭生活」「仕事生活」それぞれについて、0～100点の間でお答えください。

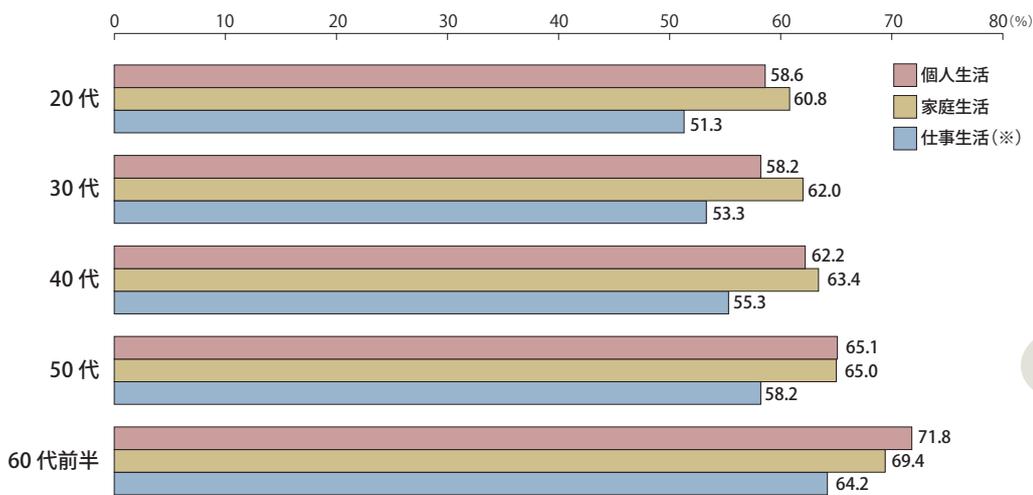
※「仕事生活」は、現在収入のある仕事をしている回答者(n=2497)のみ

点数分布



「個人生活」「家庭生活」「仕事生活」それぞれについて0～100点の間で採点を求めたところ、「個人生活」「家庭生活」については「70点以上」とする回答者が過半数を占めた。「仕事生活」の点数は相対的に低くとどまっている。

年代別平均点

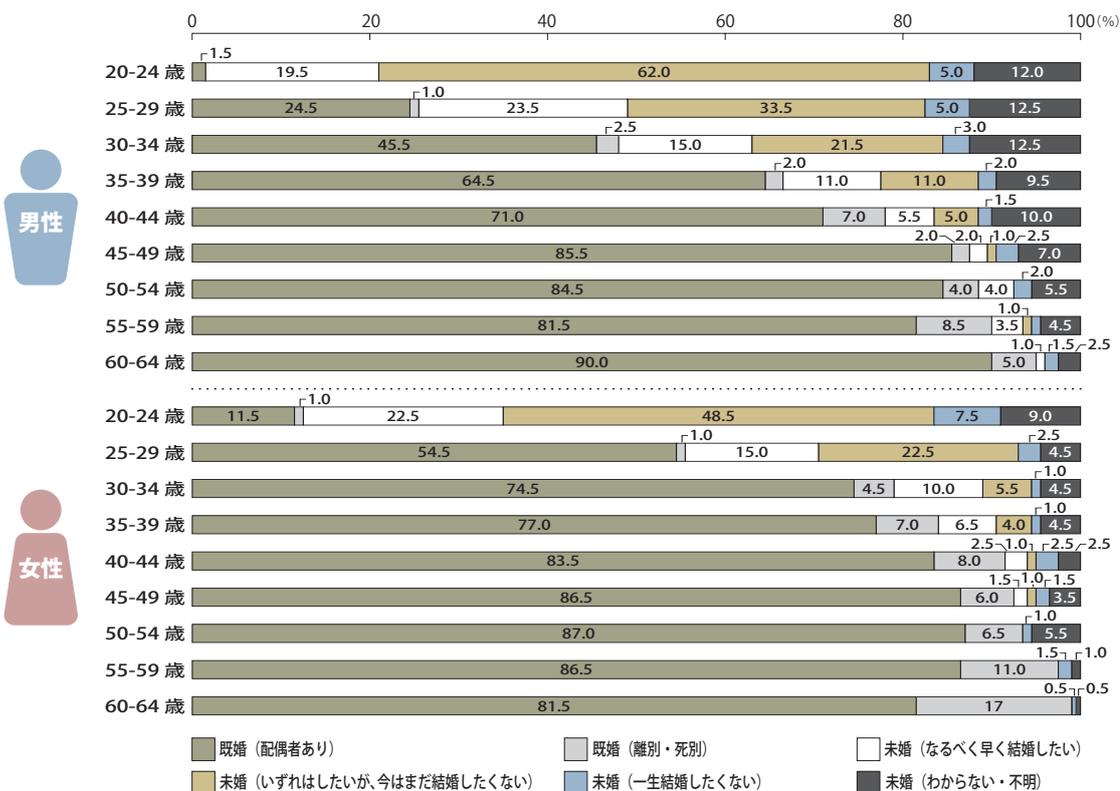


年代間で平均点を比較すると、「個人生活」「家庭生活」「仕事生活」とも、年代が上の層ほど満足度が高くなっている。

今の生活について
感じることに

「いずれはしたいが、今はまだしたくない」結婚

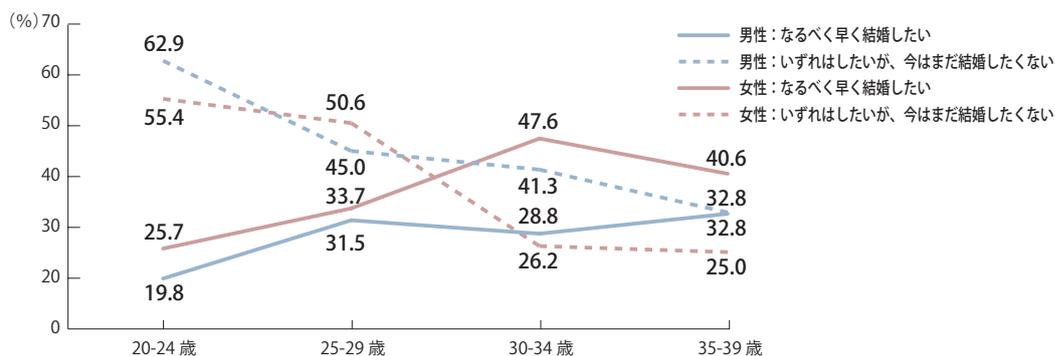
あなたはご結婚されていますか。
(未婚の場合) あなたの結婚観に最もあてはまるものをお選びください。



グラフは性・年齢別に既婚者の割合と未婚者の結婚観について示したものである。

既婚者の割合は、女性では 20 代前半と後半で大きく異なるのに対し、男性では傾斜がなだらかである。また、未婚者の結婚観にも男女差があり、女性では 30 代前半で「なるべく早く結婚したい」が「いずれはしたいが、今はまだ結婚したくない」を上回るのに対し、男性では「いずれは…」が優勢で、「わからない」の多さも目立つ。結婚のタイミングに関する男女間の意識差がうかがえる。

結婚を希望するタイミングに男女差



グラフは、未婚者のうち「なるべく早く結婚したい」「いずれはしたいが、今はまだ結婚したくない」と答えた回答者の割合を男女別に示している。

男女とも、年齢が高いほど「なるべく早く結婚したい」の割合が高く、「いずれはしたいが、今はまだ結婚したくない」が低くなる傾向があるが、年代間で比較すると、結婚を希望するタイミングには男女間で差異が見られる。

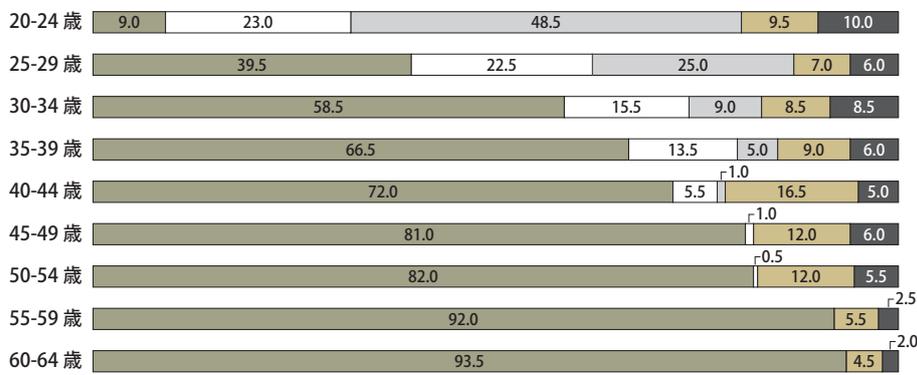
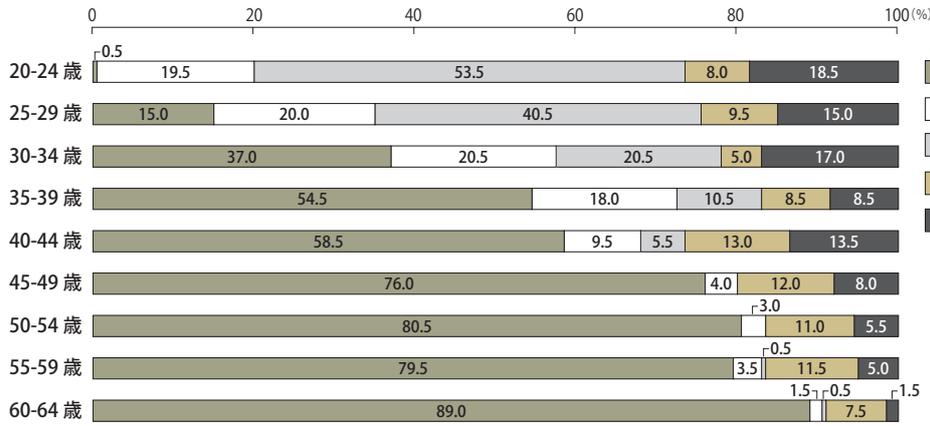
女性では、20 代では過半数が「いずれはしたいが、今はまだ結婚したくない」としているが、30 代前半では「なるべく早く結婚したい」が「いずれは…」を上回り、積極的に結婚を希望する割合が高くなっている。一方男性では 30 代前半でも「いずれは…」が優勢で、30 代前半の男女間の意識差が浮き彫りとなっている。

今の生活について感じることを

結婚

子どもの有無と希望

あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。
 (子どもがいない場合) あなたは子どもがほしいと思いますか。

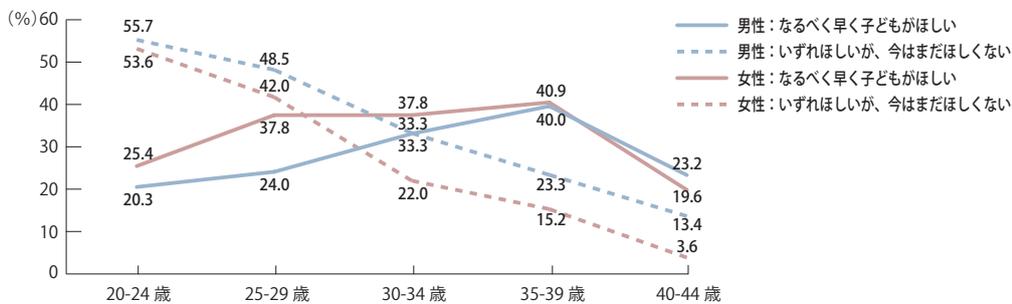


グラフは、性・年齢別に現在の子どもの有無と、子どもをもつことへの希望について尋ねた結果を整理したものである。

これによると、30代後半までの年代で「子どもはなくていい」とする割合は1割に満たず、現在子どものいない回答者の大半が「なるべく早くほしい」あるいは「いずれはほしい」と考えていることがわかる。

男女とも20代では「いずれはほしいが、今はまだほしくない」が優勢であるのに対し、30代では「なるべく早くほしい」が「いずれはほしい」を上回る結果となっている。

「なるべく早く子どもがほしい」ピークは30代後半



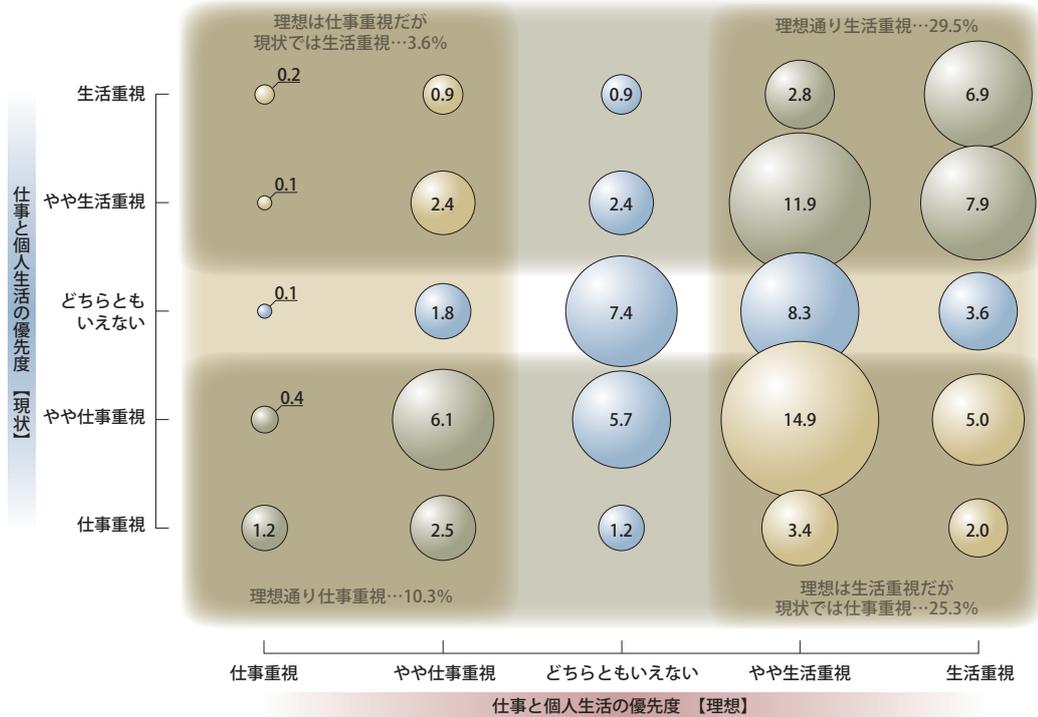
グラフは、現在子どものいない回答者のうち、「なるべく早く子どもがほしい」「いずれはほしいが、今はまだほしくない」と答えた回答者の割合を示している。

結婚の希望と同様に、女性では20代後半で「なるべく早く子どもがほしい」と考える割合が高まるのに対し、男性の20代後半ではその意識は低く、30代前半になって女性と同程度になる。「なるべく早く子どもがほしい」という希望のピークは男女とも30代後半となっている。

子ども

ワークライフバランス「理想通り」約4割

あなたは、仕事と個人生活のどちらをより重視しますか。
あなたの現状と理想に最もあてはまるものをお選びください。
※現在収入のある仕事をしている回答者のみ

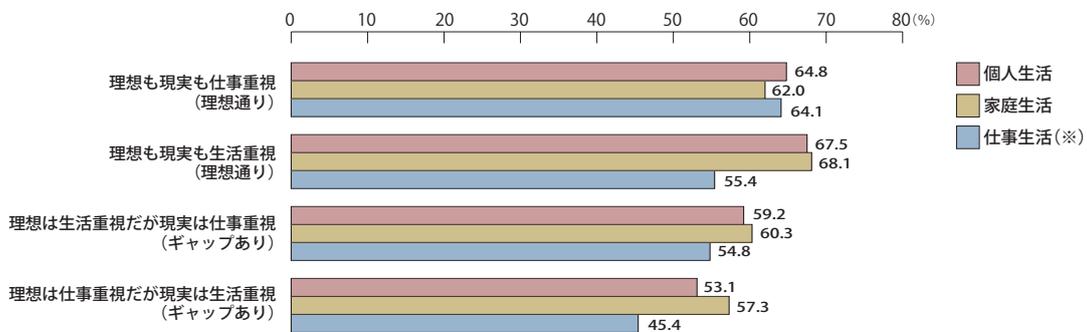


現在収入のある仕事をしている回答者を対象に、ワークライフバランスの「理想」と「現実」についてそれぞれ「仕事重視」「やや仕事重視」「どちらとも言えない」「やや生活重視」「生活重視」からの選択を求めた。

この結果、「理想」では、回答者全体の66.7%が「生活重視」「やや生活重視」と回答。一方、「現実」では「生活重視」「やや生活重視」は34.6%にとどまっている。

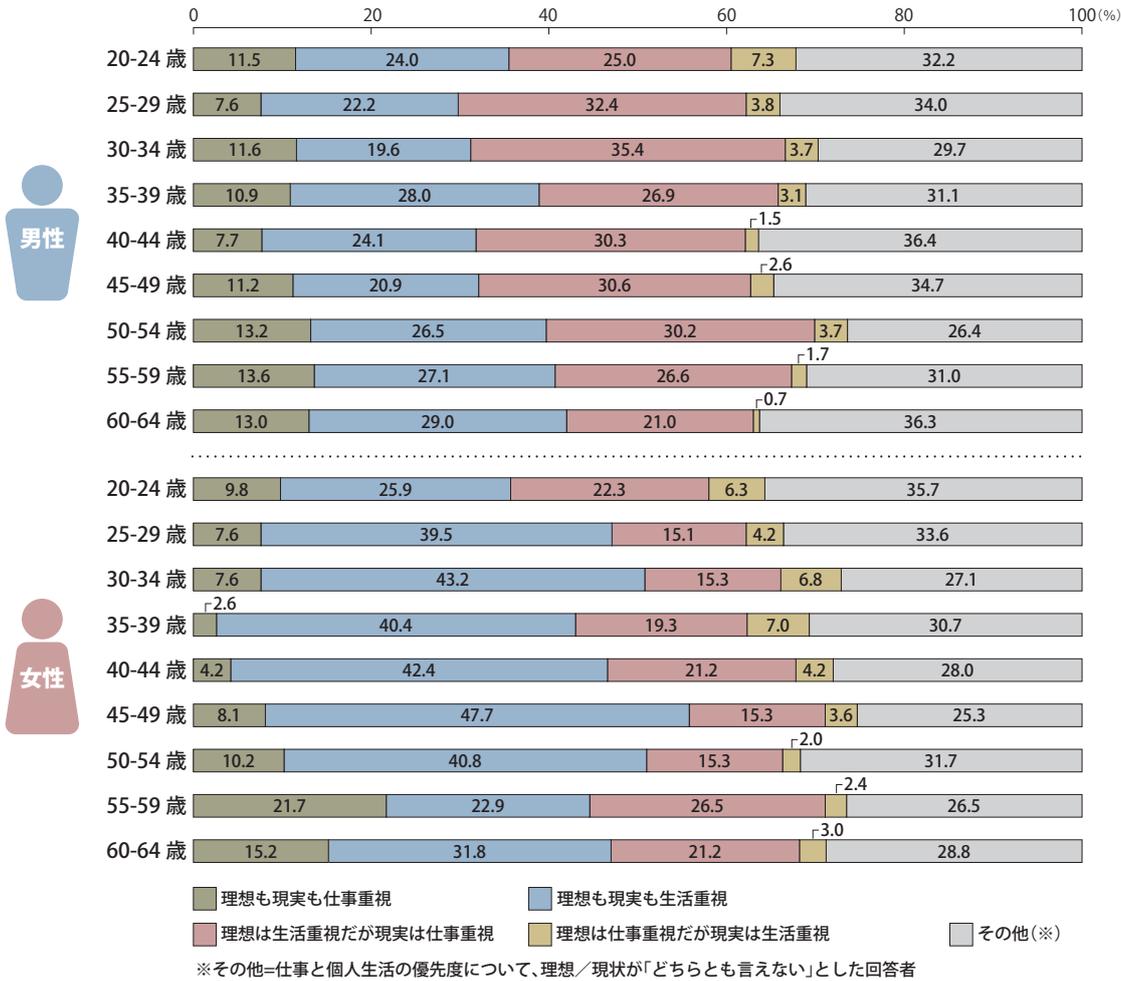
「生活重視」を理想とし、実現できていると考える回答者は29.5%。少数派ではあるが、「仕事重視」を理想とし、実現できていると考える回答者も約1割いる。これらを合わせると、理想通りのワークライフバランスを実現している回答者は約4割。一方、4人に1人が、「理想は生活重視だが現状は仕事重視」、「理想は仕事重視だが現状は生活重視」のように、理想と現状にギャップを感じている現状が浮き彫りとなった。

ワークライフバランス「理想通り」タイプで「生き方の点数」が高い



ワークライフバランスのタイプ別に「現在の生き方の点数」を比較すると、「理想通り」のバランスを実現している2グループの点数は、3つの側面すべてにおいて「ギャップあり」の2グループよりやや高めの結果となっている。特に「理想通り生活重視」グループの「家庭生活」は68.1点と高い。仕事生活満足度は「理想通り仕事重視」のグループで最も高い。

働き盛りの男性に多い 「理想は生活重視だが現状は仕事重視」



現在収入のある仕事をしている回答者について、性年齢別にワークライフバランスのタイプのバランスを見ると、20代後半～50代の働き盛りの男性で「理想は生活重視だが現状は仕事重視」が3割前後と多い。

「理想通り」のワークライフバランスを実現している割合は女性で高く、30代前半、40代後半～50代前半で特に高い。

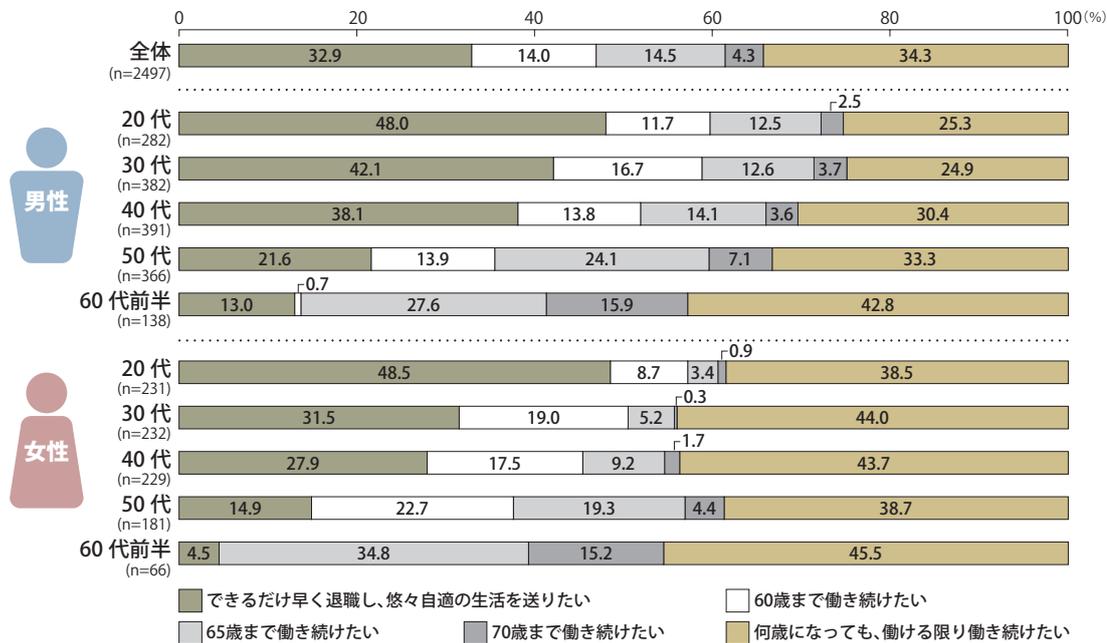
ワークライフバランス

今の生活について
感じることに

いつまで働く？ 「悠々自適」と「生涯現役」に分かれる

あなたは、いつまで働き続けたいと思いますか。

※現在収入のある仕事をしている回答者のみ



現在収入のある仕事をしている回答者を対象に、「いつまで働き続けたいか」を尋ねたところ、「できるだけ早く退職し、悠々自適の生活を送りたい」と考える「悠々自適」志向の回答者と、「何歳になっても働ける限り働き続けたい」と考える「生涯現役」志向の回答者が、それぞれ約3割を占める結果となった。

年齢別に見ると、「悠々自適」志向は若いほど強く、「生涯現役」志向は男性では年齢が上の層で強い。また「～歳まで」と、一定の年齢まで働き続けたいとする場合にも、年齢が高いほど「65歳まで」「70歳まで」とその上限を高く定めている。

仕事の継続希望